

## 青谷町版総合戦略(たたき台)

10年先の将来像  
だれもが住み続けたいまち・  
住んでみたい町 青谷町

## 目次

- \* 第1章 総合戦略策定の基本的な考え方
  - \* (1) 青谷町版総合戦略の目標
  - \* (2) 地域振興プランの検証
  - \* (3) 新地域振興ビジョン
- \* 第2章 鳥取市創生総合戦略の位置づけ
  - \* (1) 国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」との関係
  - \* (2) 戦略の期間
- \* 第3章 まちの現状と将来像
  - \* (1) 人口の現状と推計
  - \* (2) 市民活動
  - \* (3) 地域資源
- \* 第4章 戦略の実現に向けた施策の推進
  - \* I 地域コミュニティを核とした“ひとづくり”
  - \* II 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”
  - \* III 誰もが生き活きと安全で安心して暮らせる“まちづくり”



## ◆第1章 総合戦略策定の基本的な考え方

本市では平成16年11月の合併以来、新市の均衡ある発展をめざし、新市域における「地域振興プラン：平成23年度～平成27年度」「新市域振興ビジョン：平成26年度～平成35年度」を策定し、新市域の10年先を見据えた夢のある将来像を描き、行財政基盤の確立や地域振興の継続・発展、協働によるまちづくりの推進など、地域それぞれの特有の「個性」を活かしたまちづくりの方向性を示した。

合併後10年が経過し、再度、まちの現状や課題を整理しつつ、「地域振興プラン」で掲げた施策や事業、取り組みを検証すべき時に来ている。

このような中で、地方創生が打ち出され、全国各地でさまざまな取り組みがスタートし、今まさに、地域の課題を的確に捉え、地域の実情にあった具体的な取り組みを強力に進めることが求められている。

そのため、このたび、「青谷町版総合戦略」を地域や各種団体、本年度から新たに組織化された地域振興会議での議論を踏まえ策定する。

### (1) 青谷町版総合戦略の目標

市全体の基本目標及び「地域振興プラン」「新市域地域振興ビジョン」に沿った、青谷独自の基本目標を以下のとおりとする。

#### 《市全体の基本目標》

- I 次世代の鳥取市を担う“ひとづくり”
- II 誰もが活躍できる“しごとづくり”
- III 賑わいにあふれ安心して暮らせる“まちづくり”



#### 《青谷町の基本目標》（※は新市域振興ビジョンの目標）

- I 地域コミュニティを核とした“ひとづくり”  
 ※地域コミュニティの推進、活力あるまちづくり  
“コミュニティ”(同士、同志の集団・共同体・目的を共有している仲間)の意識から  
 “ウィークタイズ”(強固なものではなく、緩やかな信頼関係を抱くような人間関係)の意識への転換
- II 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”  
 ※地域資源の有効活用による、魅力あるまちづくり
- III 誰もが生き活きと安全で安心して暮らせる“まちづくり”  
 ※安全・安心なまちづくり



## (2) 地域振興プラン(H23年度～H27年度)の検証

### 《取り組み方針》

- 農産物・海産物の販路拡大
- 因州和紙など地場産業の振興
- 移住定住の促進、住みやすい生活環境の整備

### 《具体的な取り組み》

- \* ①地域振興特定予算関連
  - \* ・日中韓高校生国際シンポジウム
  - \* ・青谷ようこそまつりほか
  - \* ・あおや和紙工房管理
  - \* ・池田市交流
- \* ②合併地域活性化推進事業
  - \* ・青谷地域活性化推進事業
- \* ③中山間地域対策事業
  - \* ・輝く中山間地域モデル事業
- \* ④過疎計画関連事業
  - \* ・交通対策、道路、橋梁事業
  - \* ・児童福祉施設関連事業
- \* ⑤第9次総合計画関連
  - \* ・地域生活拠点計画策定

### 《主な成果》

- \* ①関連
  - \* ・全体事業を見直し継続実施
- \* ②関連
  - \* ・7事業を継続実施
- \* ③関連
  - \* ・和紙関連、旧市域との交流事業
- \* ④関連
  - \* ・絹見、引地地区有償運送実施
- \* ⑤関連
  - \* ・中郷小学校解体
  - \* ・地域生活拠点計画策定

## (3) 鳥取市新市域振興ビジョン(H26年度～H35年度)

10年先の将来像 ～だれもが住み続けたいまち・住んでみたい町 青谷町～

1 地域コミュニティの推進 活力のあるまちづくり	・地域生活拠点の整備
	・地域活性化イベントの再構築
	・地域コミュニティの充実
	・青谷町内の保育園・小中高等学校を核とした地域活性化 ①「卓球のまち青谷」の復活 ②国際交流事業の継続、拡大 ③保育園、小中高との連携強化
2 地域資源の有効活用による魅力あるまちづくり	・地場産業の育成
	・歴史的資源を磨き上げ交流人口を増加
3 安全・安心なまちづくり	・自主防災組織の充実と連携
	・避難行動要支援者支援制度への登録啓発
	・ひとり暮らしの高齢世帯へ「安心ホットライン」の設置啓発



## ◆第2章 鳥取市創生総合戦略の位置づけ

### (1) 国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」との関係

平成26年11月に施行された「まち・ひと・しごと創生法」に基づき国が策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な考え方や政策5原則を基本に、本市における人口減少の抑制に結びつく有効な施策を鳥取市総合戦略に位置づけています。

※「まち・ひと・しごと創生」政策5原則

1. 自立性
2. 将来性
3. 地域性
4. 直接性
5. 結果重視

青谷町版総合戦略の策定においても、国、県及び鳥取市創生総合戦略の基本的な考え方を踏襲しつつ、青谷地域の特性を活かした戦略とします。

### (2) 戦略の期間

本計画は、平成27年度から平成31年度までの5年間とします。

## ◆第3章 まちの現状と将来像

### (1) 人口の現状と推計

#### ◆現状

青谷町の人口は、合併後、1,493人、18.5%減少し、平成26年末で約6,500人となっている。特に、0歳～14歳の人口は、実に10年間で413人、42.3%減少し、少子化が進行している。人口減少の要因は、山陰道などのインフラ整備が進んだこと、就業の場が旧市に多いことから少子化と相まって若年層の町外流出が一義的な要因と推測される。一方で、「まちの魅力」「ふるさとを想う心」が薄れつつあることも陰の要因と考えられる。このまま人口減少が推移すれば、日本創生会議が唱える消滅町村となる可能性は高い。また、人口の再生産を中心的に担う20～39歳の女性人口の減少も著しい。

時点	総人口	0～14歳	15歳～64歳	65歳～	20歳～39歳 女性人口	世帯数
H16.12	8,069	977	4,687	2,405	654	2,484
H26.12	6,576	564	3,584	2,428	489	2,466
比較	△1,493	△413	△1,103	23	△165	△18



### ◆人口の将来推計

◎予測の考え方・・・鳥取市総合戦略の人口ビジョンによる

※基準人口：2010年10月1日現在（国勢調査）

※合計特殊出生率：1.55（2013数値）が2020年に1.8（希望値）に、2030年には2.07（人口置換値）に上昇すると仮定

※社会移動の状況：今後10年かけて移動率を約0.5倍に減らし、その後は一定で推移すると仮定

	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040
0～14歳	717	652	658	690	709	717	720
15～64歳	4,154	3,757	3,351	2,964	2,719	2,572	2,441
65歳以上	2,376	2,466	2,472	2,439	2,339	2,173	1,991
75歳以上	1,448	1,466	1,420	1,446	1,468	1,467	1,397
合計	7,247	6,874	6,481	6,063	5,767	5,462	5,152
鳥取市全域	197,449	192,230	187,719	182,352	177,381	171,878	165,640

## (2) 市民活動

まちの賑わいを創生するには、人の動きが欠かせない。

多くの団体、グループなどがさまざまな活動を行っているが、まちの賑わいに繋がる大きな効果が見えない。

地域に根付いた伝統・文化、風習やしきたりなどを次代に伝承し、自ら活動する人材・グループを発掘し・支援する。





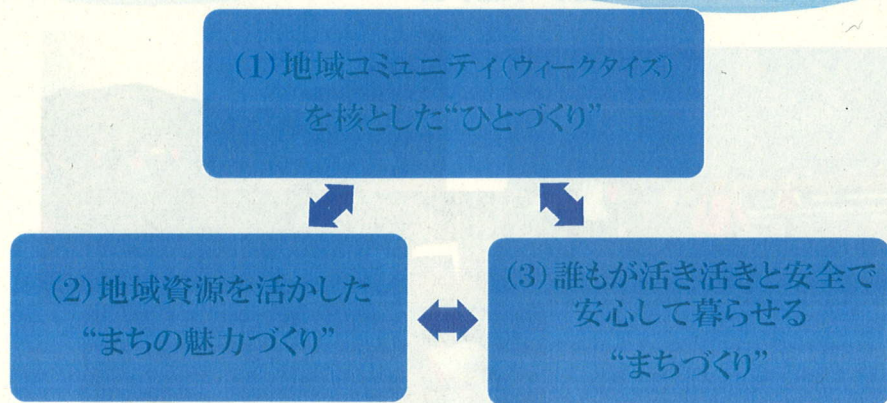
### (3) 地域資源

鳴り砂、長尾岬、不動滝をはじめとする「自然」、因州和紙の「産地」、二つの漁港から水揚げされる「鮮魚」、各地域で生産される「農産物」、弥生の遺跡「青谷上寺地遺跡」、各地に伝わる「伝統・文化」など、素晴らしい「地域資源」がまちづくりや交流人口の拡大に繋がる動きは少なく、地元民の認識も薄い。



### ◆第4章 戦略の実現に向けた施策の推進

◎地域振興ビジョンに掲げた事業の具体化と目標設定  
◎新規事業を◆で表示





## I 地域コミュニティを核とした“ひとづくり”

◆地域コミュニティの増進・活力あるまちづくり

### 1. 地域コミュニティの充実

施策	内容	目標	実施主体
各地区まちづくりリーダーの発掘	地域リーダーの発掘と育成	みんなで楽しく取り組むまちづくり	地区公民館・行政・まちづくり協議会
◆地域活動への参加意識	地区公民館の役割の再構築	環境整備事業数：3事業	地区公民館・行政・まちづくり協議会
	地区座談会の開催	年2回開催(情報共有の機会増)	地区公民館・行政・まちづくり協議会
	スーパーボランティアの促進	各地区1団体	地区公民館・行政・まちづくり協議会
◆地域の宝は地域が育てる	青中地域創造学校	目指す子どもの姿	創造学校・地域
◆祭事や伝統文化の継承	高齢者、団塊の世代の協力	青谷学の開催	老人クラブ
	子ども世代の地域活動参加	ルール・マナー・伝統等の伝承	地区公民館・集落
	集落単独実施から複数集落実施への移行	合同実施による継承・意識啓発	地区公民館・集落

## II 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”

◆地域資源の有効活用による、魅力あるまちづくり

### 1. 地域生活拠点の整備

施策	内容	目標	実施主体
青谷賑わい広場整備	駐車場整備(ウェルネス前)	(平成26年度)	都市企画課
青谷中央広場(仮称)整備	広場整備等(解体・整備)	平成27～29年度	都市企画課
福井田川親水護岸整備	親水護岸整備	平成27～29年度	都市企画課
JR青谷駅前広場整備	駅前広場整備	平成28～29年度	都市企画課
	バス待合所・公衆トイレ等(駅前青谷駐在所跡地活用)	平成29～30年度	都市企画課
照明灯整備	LED照明灯整備(日置川沿)	平成29～30年度	都市企画課
東町排水ポンプ整備	排水ポンプの増強	平成28～29年度	都市企画課
企業誘致	西部地域への企業誘致	山陰道(鳥取西道路)開通後の立地としての魅力アップ	企業立地・支援課
	鳥取森田跡地活用	継続的な招致	企業立地・支援課



## Ⅱ 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”

### ◆地域資源の有効活用による、魅力あるまちづくり 2. 地場産業の育成

施策	内容	目標	実施主体
農林漁業の活性化	夏泊定置網朝市・青谷ようこそ市場(通称:あおいち)の開催	定期的・継続的開催	JA・漁協・農業公社
	後継者育成	新規就業者数:5人	JA・団体・行政
歴史的資源の活用	青谷上寺地遺跡の保存活用	交流人口の拡大	団体・行政
◆仮称:青谷因州和紙産地強化事業関連(ようこそまつりの見直し関連)	青谷こうぞ紙手すき和紙保存会の活性化	支援事業 ユネスコ世界文化遺産登録	実行委員会
	和紙の活用・コラボ「和紙と雑貨」「和紙と民宿」	新たな構想の発信・起業支援	市民・団体
◆ジオ関連ガイド、産業の発掘	ジオガイドの育成	ジオガイド数:10人	団体・行政←削除
◆団塊の世代によるまちづくり	元気塾への参加など中高年の経験や知識の活用	組織化数:3団体	市民・団体
再) 企業誘致	鳥取森田跡地の活用		

## Ⅱ 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”

### ◆地域資源の有効活用による、魅力あるまちづくり 3. 地域活性化イベントの再構築

施策	内容	目標	実施主体
青谷ようこそまつりの見直し	仮称:青谷地域にぎわい創出事業	平成28年度:観光型・滞留型イベントへの転換	実行委員会
再) 青谷ようこそ市場(通称:あおいち)の開催(ようこそまつりの見直し関連)	年6回日曜日開催 駅前賑わいの場	入込客1,000人 特別イベント等の開催による集客	実行委員会
再) 夏泊定置網朝市の継続	定置網による鮮魚販売	入込客300人 鮮魚宅配の導入	夏泊漁協
	あおいちとの連携	入込客500人	夏泊漁協・団体・行政
	まちなかギャラリー発掘	ギャラリー3ヶ所	実行委員会
◆マリンイベント	サーフィン・スタンドアップパドルボードイベントの開催	年2回	団体
◆クラウドファンディング活用	井手ヶ浜多目的広場活用	企画の整理・調整	民間
◆フットパスの開催	素材を活かした各地区別のウォーキングコース設定	各地区既存コースをミニフットパスとしてPR こぼしまウォーキングの充実 石碑・川六作品探索コースの設定	地区公民館・各地区まちづくり協議会・民間団体
◆西因幡グランドデザインとの連携	道の駅への運営参画	出店参加団体との早期調整	民間



## Ⅱ 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”

◆地域資源を有効活用による、魅力あるまちづくり

### 4. 青谷高等学校の特色ある取り組み

施策	内容	目標	実施主体
◆青谷高等学校魅力アップ	青谷高等学校のあり方を考える協議会	青谷高校の入学者数の増加・存続	協議会・地域・行政
	青谷高校生卓球部員による卓球教室	参加者:200人	青谷高校・協議会
	中学生卓球大会	参加者:500人	県卓球連盟
	国際交流の推進	交流事業の参加者:300人	青谷高校・行政
	◆ボランティア活動	参加生徒数:100人	青谷高校・地域・行政
	◆青谷学の開催・協力	授業開催:2回/週	青谷高校・地域
	文科系部活動のPR	美術部・書道部等の作品の通路展示	青谷高校・行政

## Ⅱ 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”

◆地域資源の有効活用による、魅力あるまちづくり

### 5. 地域経済における人材還流と育成強化

施策	内容	目標	実施主体
◆池田市との交流促進	池田市イベントへの参加	参加イベント:3回(青谷物産の販売)	農業公社・民間団体・行政
◆ダイキンアレスとの交流促進	納涼祭への参加	青谷物産の販売	農業公社・民間団体・行政
	関連企業への販路開拓	青谷物産の販売	農業公社・行政
◆青谷町出身者の知的財産の活用	県内外で活躍する青谷町出身者、ゆかりのある方の発掘、作品等を紹介する機会を継続的に実施する	人物や作品等を紹介する機会を通して伝承に繋げ、触れることによる教育普及及び紹介冊子の作成	あおや郷土館
◆空家の活用及び移住定住の促進	移住定住空家運営業務委託(空家調査等) 空家・遊休施設の活用(ギャラリー、ゲストハウス等)	空家・遊休施設(店舗等)の活用 10ヵ所 空家の詳細を動画でネット配信	NPO・団体



### Ⅲ 誰もが生き生きと安心して暮らせる“まちづくり”

#### ◆安心・安全なまちづくり

#### 1. 自主防災組織等の充実と連携

施策	内容	目標	実施主体
自主防災組織の体制整備と連携強化	体制整備と連携	全集落で体制整備	地域・行政
避難行動要支援者支援制度への登録啓発	全地区での取り組み強化	登録集落:全集落	地域・行政
	制度の啓発と地域との連携	全集落で体制整備	地域・行政
ひとり暮らしの高齢者世帯へ「安心ホットライン」設置の啓発	事業説明と周知	全集落で体制整備	地域・行政

### Ⅲ 誰もが生き生きと安心して暮らせる“まちづくり”

#### ◆安心・安全なまちづくり

#### 2. 生活に必要な利便性の確保

施策	内容	目標	実施主体
◆地域バスの運行対策	地域独自バス運行	オンデマンド方式の可能性の検討	民間・NPO
◆買い物支援対策	実態調査	可能性の検討	民間・NPO



### Ⅲ 誰もが生き生きと安心して暮らせる“まちづくり”

#### ◆安心・安全なまちづくり

#### 3. 結婚・出産・子育て支援

施策	内容	目標	実施主体
◆子育て世代グループの活動支援	すくすく保育園で開設している子育て支援センター参加の保護者を中心としたグループの立ち上げ・高齢者との世代間交流	現在使用していない第2園舎の活用を含めた、可能性の検討	市民・団体・行政
◆独身の会の立ち上げ	青谷地域で会を立ち上げ、活動を通じた交流機会の創出	可能性の検討	市民・団体
◆他地域の素材との連携	例：子守神社の磨き上げ、白兔神社や八神姫とのストーリー作りなど	新たな観光ルートの可能性の検討	旅行会社・行政

### 戦略策定のスケジュール

◆平成28年3月公表

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域振興会議		○	○		○	○		○	○	
骨子決定	→									
具体事業協議	→									
戦略全体協議				→						
まちづくりアンケート			→							
地区座談会等						→				
グループヒヤ	→									



